

設定温度の見直し

○ 冷房時、エアコン設定温度を高くすると節電になります。

試算例

8:30~17:30の間に空調の設定温度見直しをすると...
(空調面積3,500m²相当の事務所ビルの事例)

■ 節電効果: **節電効果 12万円/年** 【業務用電力単価を適用】
節電電力 約 13kW(夏期), 14kW(冬期)
節電電力量 約 7,700kWh
2,900kWh(夏期), 4,800kWh(冬期)

■ 対策内容: 設定温度 冷房(26°C⇒28°C), 暖房(22°C⇒20°C)

■ 計算式: 節電電力(kW) = 定格消費電力(設備分) × 最大負荷率 × 削減効果
 節電電力量(kWh) = 節電電力 × 対象時間 × 対象日数
× 期間平均率

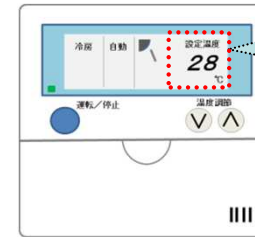
(試算条件)

定格消費電力(設備分): 122kW(パッケージエアコン 8HP×1台, 18HP×7台)
 最大負荷率: 夏期70%/冬期80%(仮定)
 期間平均率: 夏期40%/冬期50%(仮定)
 削減効果: 夏期15%/冬期14%(小規模事務所ビルの場合)
 対象時間: 9時間/日(8:30~17:30)
 対象日数: 夏期63日/年(7~9月の平日), 冬期79日/年(12月~3月の平日)
 [実際の試算には、設備の余裕度や同時利用率などの運用状況を考慮した数値をお使い下さい]

ポイント

- 目標として室温が28°Cより低くならないよう心掛けてください。
- ビル管理法などの法令を超えた過剰な取組みとならないようご注意ください。
- 電気室やサーバー室などは、設置機器の保護温度(および実際の室内温度)を確認し、温度設定してください。

参考



エアコン温度設定(例)

- ・夏期(冷房時) 26°C⇒28°C
- ・冬期(暖房時) 22°C⇒20°C

冷房時 最大電力の低減率(削減効果)
(室温緩和26°C⇒28°C(2°C))

大規模事務所ビル [※]	8%
小規模事務所ビル [※]	15%
ショッピングセンター	10%
コンビニエンスストア	9%
デパート	6%

日本サステナブル建築協会資料より

暖房時 最大電力の低減率(削減効果)
(室温緩和22°C⇒20°C(2°C)) 夕刻時

大規模事務所ビル [※]	11%
小規模事務所ビル [※]	14%
コンビニエンスストア	7%

(株)日建設計総合研究所試算値より

※大規模事務所ビル: 契約電力500kW以上
 ※小規模事務所ビル: 契約電力500kW未満
 (注)設備や外気条件、ご使用方法等で低減率は変動します